

■ IPEC 21- 2004

今年で4回目を迎えるIPEC21を10月13日から15日まで東京ビッグサイトで開催します。今年はスウェーデンをはじめとして海外からの出展も増えました。フランス・パリの国際家具見本市「サロン・ド・ムーブル・パリ」からの交流展示も決定しています。また、デザイナーズ・ショーケースでの提案・発表内容に対して来場者が行なう投票で1位になった受賞者は、2005年1月の「サロン・ド・ムーブル・パリ」へ優先的に出展することが出来ます。21世紀は「環境の時代」と言われ、今年のIPEC21は「ひと・環境・デザイン」をテーマにしています。多くの企業、団体、個人が情報の交流をはかり、広く外部へ発信する場としてぜひご利用ください。

■ JIPA 発展のために

JIPAの大会は今年、東京で開催されます。本年はIPEC21のセミナーの1講座にJIPA関連の枠を確保し、「これからどうするインテリアのプロ」と銘打ち、インテリアの国際性と地域性、教育と資格などの問題についてトーク・シンポジウムを計画しています。たくさん問題を難題と考えるか、大きな可能性と考えるか、これは怪しいということも健全な道を探そうとするかどうかでまったく違うものになりますが、私たちプロが社会にどれだけ貢献し、発展させていけるか、すべてプラス指向にしたいものです。JIDやJCDの代表者を迎えて幅広い見地で自由なトークに参加していただこうとしていますので、みなさん是非、ご参集ください。

[記事：浦一也]

■ 2004年活動指針から新役員、新委員長紹介

会長 中川誠一

副会長 浦一也(会長代行)

志村 美治 霧野 隆

副会長・専務理事の分掌と[新委員長]

総務委員会 【大溝浩】[濱弘美]

事業委員会 【浦一也】[稲垣雅夫]

情報委員会 【霧野隆】[羽澤昌子]

会員交流委員会 【志村美治】[村口峡子]

国際委員会 【志村美治】[古丸俊夫]

広報室 【浦一也】[下田濟二郎]

JIPA 代議員 貝塚恭子 栗山正也

席谷 正 中川誠一

■ 賛助会員「インフォメーションの会」発表企業募集のお知らせ

「会員交流委員会・賛助会員の会」では、情報発信と協会員相互の交流の場として「インフォメーションの会」を開催し、好評を得ています。このたび「インフォメーションの会」に『企業訪問の会』と『施設見学の会』を新しく設けました。増えてきました賛助会員の方々の「企業の発表機会を増やし、協会員相互の理解と関係を深め、お互いの発展につなげて行きたい」と思います。どうぞ多くの賛助会員の方の申込をお待ちしています。

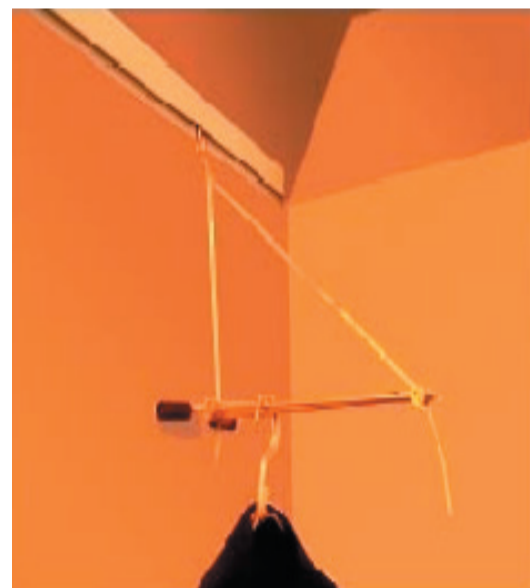
会員交流委員会 松澤 敏高

■ 途中下車

～”エコ”という発想～

どんな分野においても、環境意識が必要になっていきます。エコに配慮した物作りとはなんだろうか、作る側、使う側、捨てる側が三位一体がエコではないのかと思うようになってきた。今回お邪魔した、荒川技研工業(株)さんは、ワイヤーグリップの専門メーカーで材料販売を行っている会社です。分かりやすく言いますと、ピクチャーレールにワイヤーで絵を吊すあのワイヤーに、何でも吊すと云う感覚で想像してみてください。当社のグリッパー

は通産省のグッドデザイン選定商品にも選ばれ、世界中の様々なシーンで愛用されています。商業空間では、パネル吊りや棚吊りなどで、世界中の「エンポリオアルマーニ」の店舗で採用されています。住空間では、レイアウトを自由に変えられる吊りシステム『パレット』で額吊りや棚吊りだけでなく、ハンガーラックやバックホルダーなどもあります。公共空間ではワイヤー手摺り、美術館では絵画吊りなどが挙げられます。その他最近では、吉祥寺のアーケード街にて鳥害対策用ワイヤーシステムや、照明器具で、日本人デザイナーの内山章一氏が設計したペンダントライト「エ



絵を掛ける感覚で、ハンガーを吊るす事もできます



壁からワイヤーを張るだけでこのような面白い飾り方ができます

ニグマ(照明メーカーはデンマークのルイスポールセン)に、アラカワの開発した超細線ステンレスワイヤーが採用されています。そのため捨てる時もリサイクルでき、使うと時もほとんど残材がのこりません。現代生活にマッチした材料ではないでしょうか。実際の施工事例につきましては、ホームページでご覧下さい、商品を実際に手に取っていただけるよう、原宿・表参道にショールームがあります。

賛助会員企業訪問 荒川技研

■ 3 分間のタイムスリップ

「ジョージアン様式 - 2」

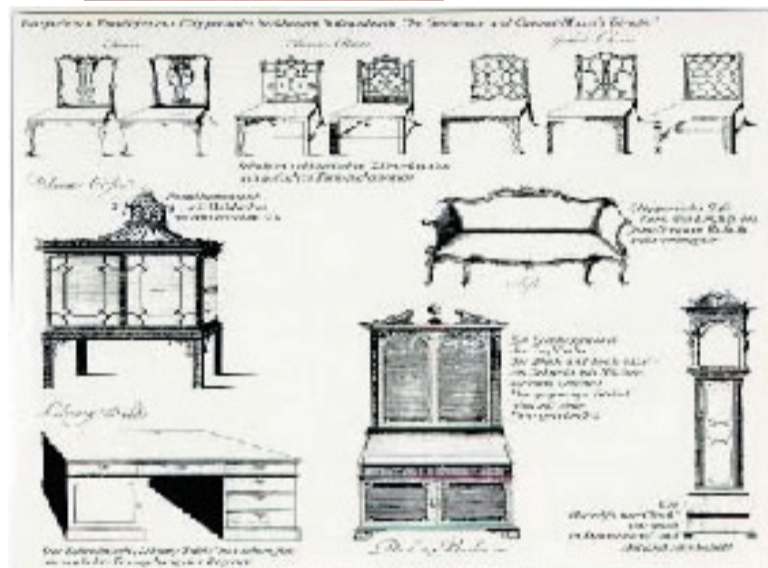
ウォールナットは 17 世紀の後半の 40 年には構造用として、18 世紀に入ると高級家具の装飾用として重宝がられた木材である。が、良質のものはフランスから輸入されていた。1709 年極寒のためヨーロッパのウォールナットが被害をうけ、1720 年フランスが輸出を禁止した。1721 年造船の振興から、植民地からの材木の輸入税を廃止した。この中にジャマイカから輸入されたマホガニーが含まれていて、家具の構造用として使われたのだが、見た目も美しく木目も詰んでおり、ウォールナットより丈夫なこ

1660-1720 1720-1770 1770-18



とも分かり、反りや収縮もなく磨くとブロンズのような艶も出てきてマホガニー人気が集まってきた。18 世紀後半になるとホンジュラスから大量のマホガニーが輸入されたが、色も薄く木目も詰んでいない材料で中流家具に使われた。この材を総称してサテンウッドと呼んだ。イギリスの家具でこれらの材木が使われていればその時代が読めるので、今回はとりあげてみた。

東インド会社が大量に中国の陶磁器を輸入陸揚げされるにつれ、あの半透明の白地に藍色で染め付けられた中国陶器の美しさは、まだ白磁の作り方を知らないヨーロッパ人に感動を与え、毒を入れると粉々に飛び



最初のデザインブックを出した

「トーマス・チップペンデル様式」

散ってしまうと信じられていたようで、これらがあいまってシノアズリ（中国趣味）という中国スタイルが大流行した。イギリスでは、トーマス・チップペンデルがボーフォート公のためにデザインした 4メートル近い中国風ベットです。彼はイギリスにおいて初めてデザイナーとしてチップペンデルの名を高めたのは、このシノアズリーであった。彼の制作した家具は大きく分けて、ロココ風、ゴシック風、ミックス型とこのシノアズリーの四タイプに分けることができる。彼はまた、ウォールナットは使用せず西インド諸島から輸入されたマホガニーを使いデリケートな装飾の細部を際立たせている。そしてゴシック調やロココ調などのデザインブックを世界史上初めて出したのも彼であった。



ロココ調



ゴシック調

■ 新連載 知って知らない道具シリーズ 「うづくり（かるかや）」



この道具で板の表面をこすると成長の早い春目が削られて夏目が浮き出ます。木目を美しく際立たせる道具で、材木によりいろいろの種類のうづくりが使われています。植物の根から作られているものや、萱や馬毛などもあり、桐筆筥などには「にご」と呼ばれ

る稲の穂先の部分を使ったものもあります。和草（にごさ）和毛（にごけ）のやわらかいの意味から「にご」はきているようです。こする前に着色するそうで、こすった後から着色すると、柔らかい春目が膨らみ凹凸が無くなるのだそうです。桐筆筥の時代仕上などは蠟を先に塗こするそうです。



うづくり荒め

うづくり細め

うづくり馬毛

■ 新入会正会員の紹介

高島利久
 (株) 高島屋スペースクリエイツ
 プランニングデザイン本部
 東京デザイングループ
 tel 03-5652-1061
 fax 03-5652-1065
 「インテリアデザイン全般」

丸山 隆
 タカシ+Creation 代表
 Tel/fax 044-844-1451
 高島屋で33年学び、6月に独立しました
 「小智とアイデア」+情熱でヒーリング感覚に溢れた夢空間の提案を・・・

■ 編集後記

今月号からニュースレターも新しいメンバーになりました。読んで楽しい記事にしたいと、そこで《途中下車》の課題を新しく連載します。賛助会員さんの企業がどんな品物を扱っているのか、コンセプトはどこにあるのかなど、私たちが知って得る情報を取材して行きます。突然会社にお邪魔するかも。井上・村元